千葉大学アカデミック・リンク
開設10周年記念シンポジウム
「ポストコロナの時代における
高等教育とそれを支える教育・学習支援」

コロナ禍におけるラーニングコモンズでの学習支援の現状と今後の役割

大阪大学 全学教育推進機構
教育学習支援部 教授
村上正行

masayuki@murakami-lab.org

Twitter ID: @munyon74

https://www.facebook.com/masayuki.murakami.14

本報告の概要

- コロナ禍におけるラーニングコモンズでの支援内容の変化に関する調査
- コロナ禍における“つながりの実感”
- ポストコロナの時代におけるラーニングコモンズの役割

関西ラーニングコモンズ担当者ネットワーク

- 関西圏のラーニングコモンズ担当者による情報交換の場として、2015年に発足
- 年4回程度ミーティングを開催（現在、第16回）
  - 施設の見学、情報共有、議論
  - 2020年度、2021年度は年2回、オンラインで開催
- オンラインでの情報共有
  - 現在、約80名程度がメーリングリストに登録
  - Facebookグループ（限定公開）
    https://www.facebook.com/groups/1118929184787848/

大学教育学会 課題研究

- “コロナ禍がもたらす大学教育の可能性 ―対象・方法・内容―” サブテーマ2「ニューノーマル時代における学習環境デザインモデルの構築」（代表：千葉美保子）
  - 千葉美保子（甲南大学）、川面きよ（帝京大学）、石井和也（宇都宮大学）
  - 村上正行（大阪大学）、多田泰紘（京都橘大学）、浦田悠（大阪大学）
  - 岩﨑千晶（関西大学）、遠海友紀（東北学院大学）、嶋田みのり（東北学院大学）

プロセス	内容
① ニーズ分析や実態把握	国内における学習環境に関する文献調査や、アンケート・インタビュー調査の実施、分析を行い、学習環境デザインに関するニーズ分析を実施する
②評価指標の策定、実践の評価	①の結果に基づいて現状の学習環境に必要な要件の洗い出しを行い、学習スペースの評価システム（LSRS）などの従来研究も踏まえて評価指標の策定を行い、実践の評価を行う
③Tips集の開発及びワークショップの実施	①、②の成果を踏まえて学習環境デザインモデルを構築した上で、学習環境の運営や評価に関するTips集を開発し、その共有のためのワークショップを本学会員対象に実施する

コロナ禍におけるラーニングコモンズでの支援内容の変化に関する調査

- コロナ禍において、ラーニングコモンズがどのように対応したのかを明らかにするために質問紙調査を実施
  - 遠海友紀, 嶋田みのり, 千葉美保子, 川面きよ, 松井 きょう子, 岩﨑 千晶, 村上 正行（2021）「コロナ禍におけるラーニングコモンズでの支援内容の変化に関する調査」日本教育工学会研究報告集21-4 pp.41-44
  - https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsetstudy/2021/4/2021_JSET2021-4-A7/_article/-char/ja/

- 調査概要
  - 期間：2021年9月1日～9月22日
  - 方法：Googleフォーム

- 調査対象
  - 関西ラーニングコモンズ担当者ネットワーク（KLCN）に参加する大学関係者
  - 回答数：17大学、20施設（学生の学習支援を実施する図書館や学習室も含む）

質問項目

	質問項目（一部省略）	回答方法
前提（7問）	大学名	記述
	回答者名・所属・職種の区分・連絡先	記述
	施設名	記述
	LCの運営に関わっている部署	記述
コロナ禍前（5問）	利用可能施設	選択
	学習支援の実施・内容	選択
	学生スタッフの活動・内容	選択
コロナ禍（18問）	授業実施形態	選択
	施設の開室状況	選択
	利用可能施設	選択
	学習支援の実施状況・内容	選択
	学生スタッフの活動・内容	選択
	コロナ禍における運用で意識していること	記述
	コロナ禍での運用でよかったこと	記述
	コロナ禍の運用で大変だったこと	記述
	コロナ禍の経験を活かして始めたこと	記述
	他大学に聞きたいこと	記述

施設の運用について

- 通常、LCは図書館に設置されることが多い

- 本調査において、回答したLCの運用組織
  - 図書館単体で運用　1施設
  - 複数の組織で運用　19施設
    →うち、図書館が運用に関わっているのは7施設
    その他、教務課、教学部、多言語学習を
    支援する組織などが運用に関わっている

コロナ禍での大学の授業実施形態（17大学）

授業実施方法	2020年前期	2020年後期	2021年前期
対面	0	0	0
オンライン	7	0	0
対面・オンライン併用	6	14	15
対面/対面・オンライン併用	0	0	1
オンライン/対面・オンライン併用	4	2	0
対面/オンライン/対面・オンライン併用	0	1	1

- 半期を通して、対面授業のみでの授業実施はない

- 2020年度前期はオンライン授業のみでの授業実施
- 2020年度後期以降は対面とオンラインを組み合わせた対応が多い

コロナ禍でのLC開室状況（20施設）

LCの開室状況	2020年前期	2020年後期	2021年前期
通常開室	0	4	7
開室時間短縮	3	11	6
閉室	8	3	1
通常開室/閉室	2	0	1
開室時間短縮/閉室	7	2	2
通常開室/開室時間短縮	0	0	2
通常開室/開室時間短縮/閉室	0	0	1

- 2020年度前期は、閉室の対応が最も多い
- 2020年度後期は、時間を短縮した開室が最も増える
- 2021年度前期は、通常開室が最も多くなった

コロナ禍でのLC開室

- 感染対策
  - 入退室管理、体温確認、マスク着用
  - 換気、消毒（利用者、スタッフ）
  - ソーシャルディスタンス：席の間引き、定員管理、アクリル板の設置
  - グループ利用の停止（個人利用へ切り替え）
  - 雑談禁止、飲食の停止
  - オンライン利用の促進（環境整備：通信環境、コンセント、個人ブース新設）
  - 声かけ・アナウンス

東北学院大学LCの取組み（事例）

入口で手指の消毒
感染対策の案内

機器の消毒・席の間引き

飛沫防止パネルの設置・席の間引き

学習支援環境の提供（各19施設）

	提供されていた学習環境	コロナ禍前	コロナ禍
1	ネットワーク接続環境の提供	18 (95%)	16 (84%)
2	学習支援スペース	16 (84%)	13 (68%)
3	プレゼンテーション・イベントスペース	16 (84%)	11 (58%)
4	可動式机・椅子を備えた自由に空間を創造できるスペース	16 (84%)	12 (63%)
5	グループ学習室以外の談話可能なスペース	14 (74%)	9 (47%)
6	資料コーナー	14 (74%)	10 (53%)
7	グループ学習室（椅子と机程度の簡易なもの）	13 (68%)	7 (37%)
8	展示スペース	12 (63%)	9 (47%)
9	コンピュータ・スペース	10 (53%)	8 (42%)
10	グループ学習室（ICT機器を備えたもの）	10 (53%)	5 (26%)
11	カフェや自動販売機を設置したスペース	7 (37%)	7 (37%)
12	カフェ等以外の飲食可能なスペース	7 (37%)	5 (26%)
13	サイレント・スペース	6 (32%)	7 (37%)
14	マルチメディア制作編集機器提供スペース	2 (11%)	1 (5%)
15	授業および課題で使用するソフトウェアの提供	2 (11%)	4 (21%)
16	コンピュータ・ルーム	1 (5%)	1 (5%)

・コロナ禍前と比べて、全体的に減っている＝利用制限

学習支援の実施

- コロナ禍前（19施設）

対面	対面・オンライン	オンライン	実施なし
14 (74%)	2 (11%)	1 (5%)	2 (11%)

- コロナ禍（20施設）

実施なし	中止	対面	オンライン
2	0	1	3

対面・オンライン	中止・対面・オンライン
13	1

一時的な中止はあるが、 調査期間を通した中止はない
・閉室中も、学習支援は継続していたところも

学習支援の実施

- コロナ禍前（17施設）
  - 講習会/セミナー（15施設、88%）
  - 日本語文章作成支援サービス（12施設、71%）
  - 施設オリエンテーション（12施設、71%）

- コロナ禍（18施設）
  - 講習会/セミナー（13施設、72%）
  - 日本語文章作成支援サービス（13施設、72%）
  - 外国語学習支援サービス（9施設、50%）

  - 施設オリエンテーションの実施は減少 （8施設、44%）

学生スタッフの活動

- コロナ禍前（19施設）

対面	対面・オンライン	オンライン	実施なし
15 (79%)	1 (5%)	0 (0%)	3 (16%)

- コロナ禍（20施設）

対面・オンライン		中止・対面・オンライン		中止・対面
8 (40%)		3 (15%)		3 (15%)
対面	オンライン	中止	実施なし	
2 (10%)	1 (5%)	1 (5%)	2 (10%)	

コロナ禍に入ってから、2施設が新たに活動開始

オンラインを取り入れた活動の増加
→活動の幅が広がった
→勤務管理やコミュニケーションに課題

コロナ禍の開室・運用でよかったこと

- **学習環境の提供**
  - **学生が登校した際の居場所**としての機能として重要な役割を果たした
  - 学生の**グループ学習、情報交換の場**になった。**遠隔授業の受講スペース**を提供できた
  - **オンライン就活の面談スペース**を提供できた
  - **自宅のネット環境に不安がある学生の学習の場所**として有効に活用された
  - コロナ禍における**数少ない学生間の交流の「場」となったこと**

- **オンラインを活用した対応の実施（学習支援などの拡充）**
  - 教育サービスのオンライン化のためのインフラがある程度整備できた
  - **HPに教材などをデータを提供**できるようになった
  - オンライン・ワークショップの受講者が予想よりも多かったこと
  - **オンラインでの学習支援（個別相談・セミナー）**を取り入れることができた

  その結果、他キャンパスの学生にも学習支援を活用してもらいやすくなった

コロナ禍の開室・運用で困ったこと

- **コモンズの開室・運用方針の検討について**
  - 新型コロナウイルスの**感染防止と利用拡大の境界線の基準を決めるのに大変苦労**した
  - **組織で足並みをそろえないといけなかった**ところ
  - そもそも**大学全体で各施設を開けるかどうかの判断がつかなかった**（決定までに時間を要した）ことが困った
  - **先の見通しが困難**で運用計画を立てるのが難しい
  - 教育サービスのオンライン化（**運用方法などかなり短期間で詰める必要があった**）

- **感染対策１（新たな業務）**
  - これまでは必要なかった**換気や消毒**などの開閉館前業務が発生したこと
  - 学習施設エリアの感染対策
    （座席数調整やアクリル板設置、サイン等、**試行錯誤**）

- **感染対策２（利用制限など）**
  - **コモンズの特性を生かした活用をしてもらうこと**。グループワークなどが難しい

コロナ禍の開室・運用で困ったこと

- **感染対策について3（利用者対応）**
  - 座席数を減らしているので、試験期には館内全域が混む。**利用者が密**になりがち
  - 利用者間の距離を取るための工夫をしても、**作業内容によっては学生が近づいてしまう**

●学生への広報、情報の周知について

- 現在どのような開室時間・方針となっているかということについて、周知に苦労した
- 感染防止の注意喚起に労力がかかった
- Zoomを使ったオンタイム授業や打合せ**受講場所の周知**

●その他

- 遠隔授業の実施によって、コモンズの利用者が減った

コロナ禍での新たな取り組みと課題

- 新たな取り組み：オンラインの活用・対応
  - 個別の学習支援、セミナーやイベントの実施、教材の提供
  - 学生スタッフの活動
  - オンライン授業の支援

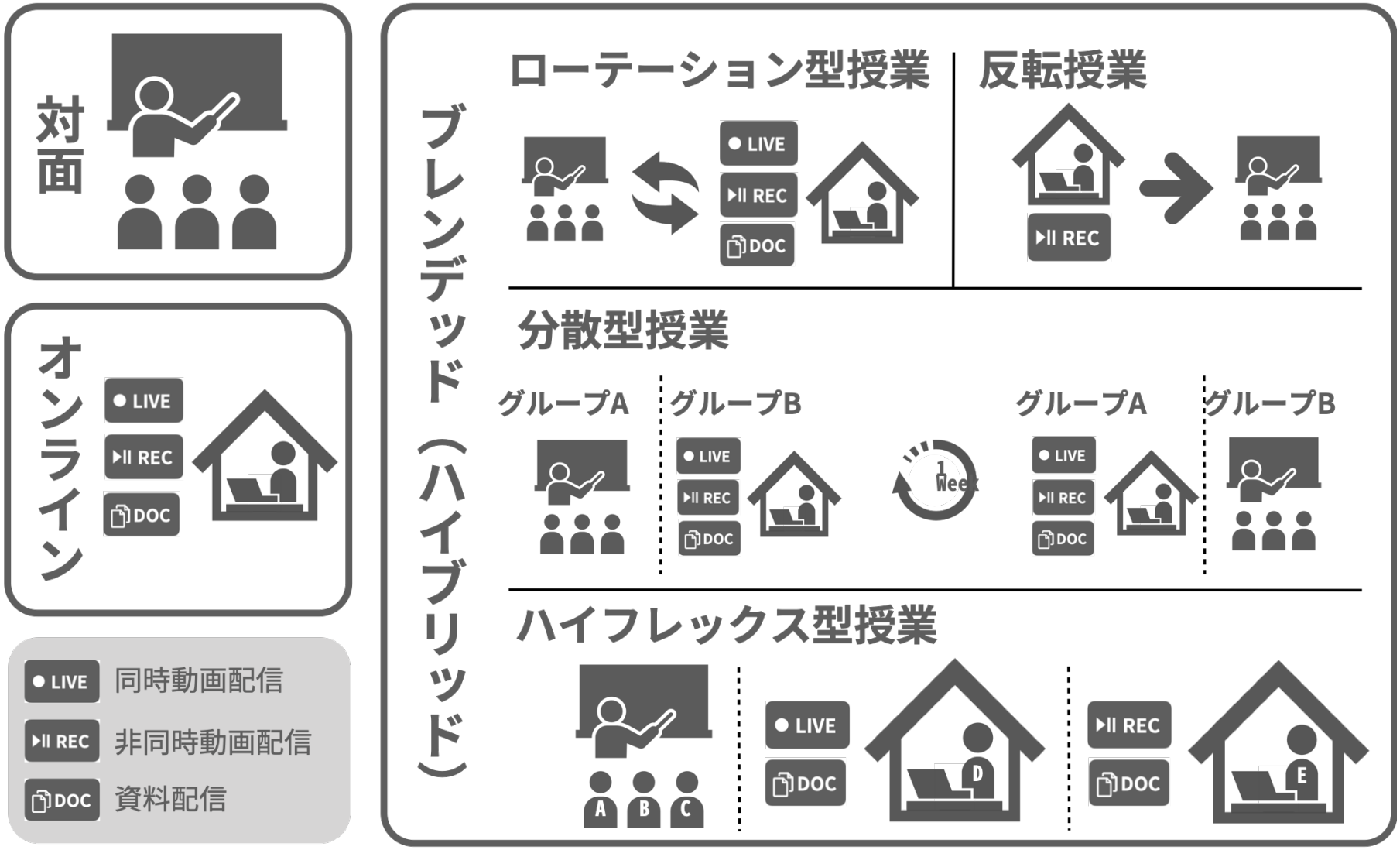
- 課題：学習環境の提供
  - グループ学習のための場の提供方法
    →利用制限、消毒、利用者管理など

考察

- 多くの施設が短期間の間に手探りで対応を検討
  - 各施設の実践を共有し、各大学の状況に応じて最適な取り組みを検討できる仕組み

- コロナ禍を経験し、LCはどう変わっていくのか
  - 今後想定される授業環境（対面・オンライン・対面とオンラインの組み合わせ、など）における、学習環境や学習支援の在り方にどう対応していくのか
  - 学習支援担当者として新たなニーズ・需要にどう応えていくのか

ブレンデッド教育



※各授業型の用語は、欧米や日本における一般的な定義をレビューした上で作成しています。組織や研究者によっては、異なる定義がされていることもあります。

“対面”授業の意味、“キャンパス”の意義

- 多くの教員の立場
  - “半強制的に”、“仕方なく”「オンライン授業」を実施しないといけない状況に
- 学生の立場
  - 授業はオンラインで実施されるものの、大学のキャンパスに入ることができず、課外活動や友人同士の交流など多様な活動が制限

- 学生同士、教員と学生の**“つながり”**がどのように変化し、つながりを実感できない学生をどのように支援できるのか
- 大学における多様な活動をどのような形で行えるのか

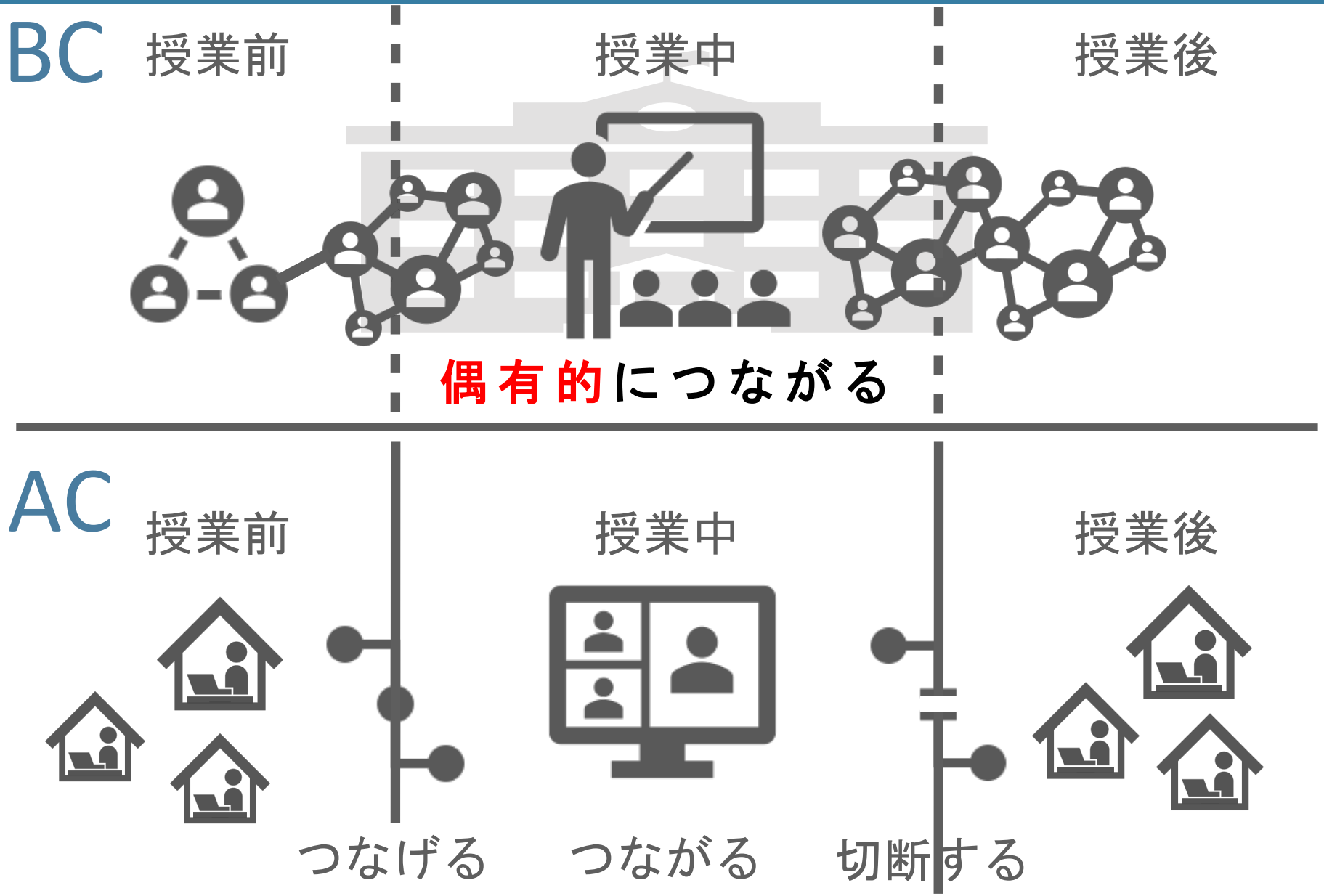
“大学”の授業が対面で行われてきた意味
物理的な“キャンパス”の意義、“大学”の役割の問い直し

コロナ禍における“つながりの実感”

- 浦田悠「コロナ禍における人生の意味とつながりの実感」（大阪大学SSIマンスリートピックス）https://www.ssi.osaka-u.ac.jp/activity/topics/urata/

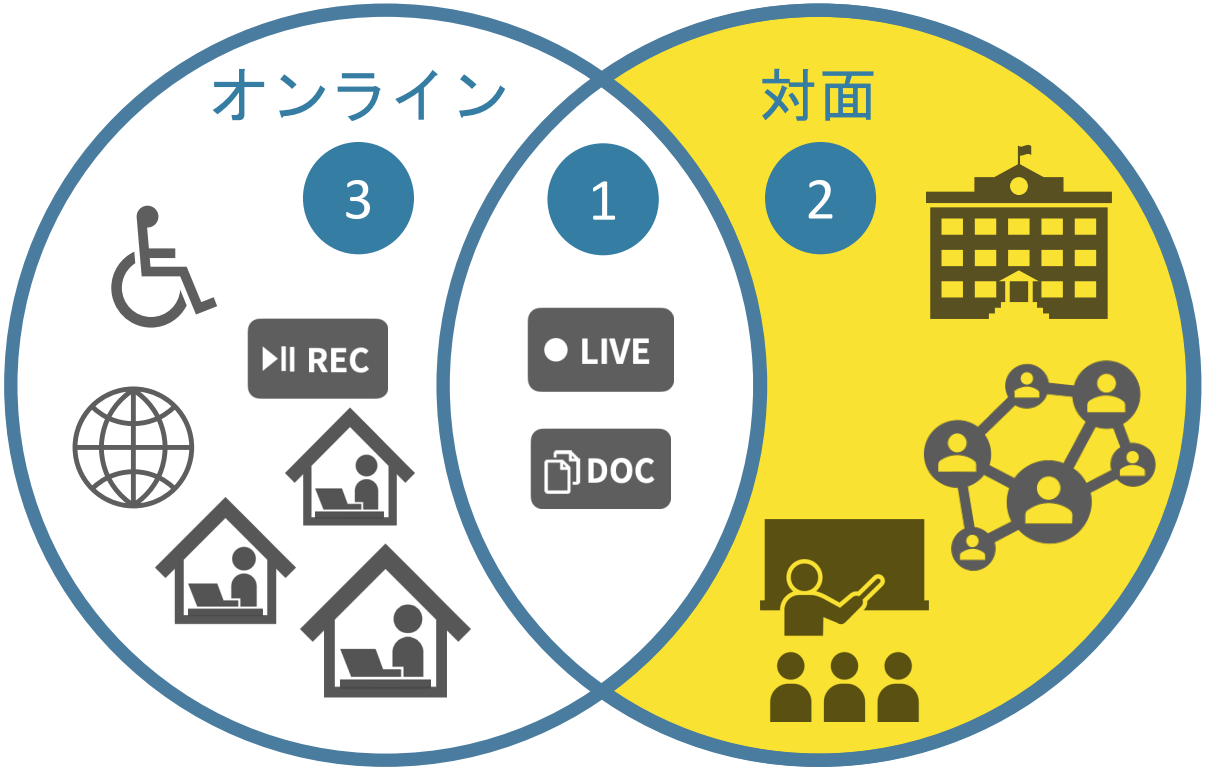
- 村上正行, 浦田悠（2021）「大学における「つながりの実感」とオンライン授業」質的心理学フォーラム Vol.13, pp.28-36

つながらない、つなげる、つながる



浦田 悠（2021）日本質的心理学会第18回大会発表資料

オンラインと対面の重なり

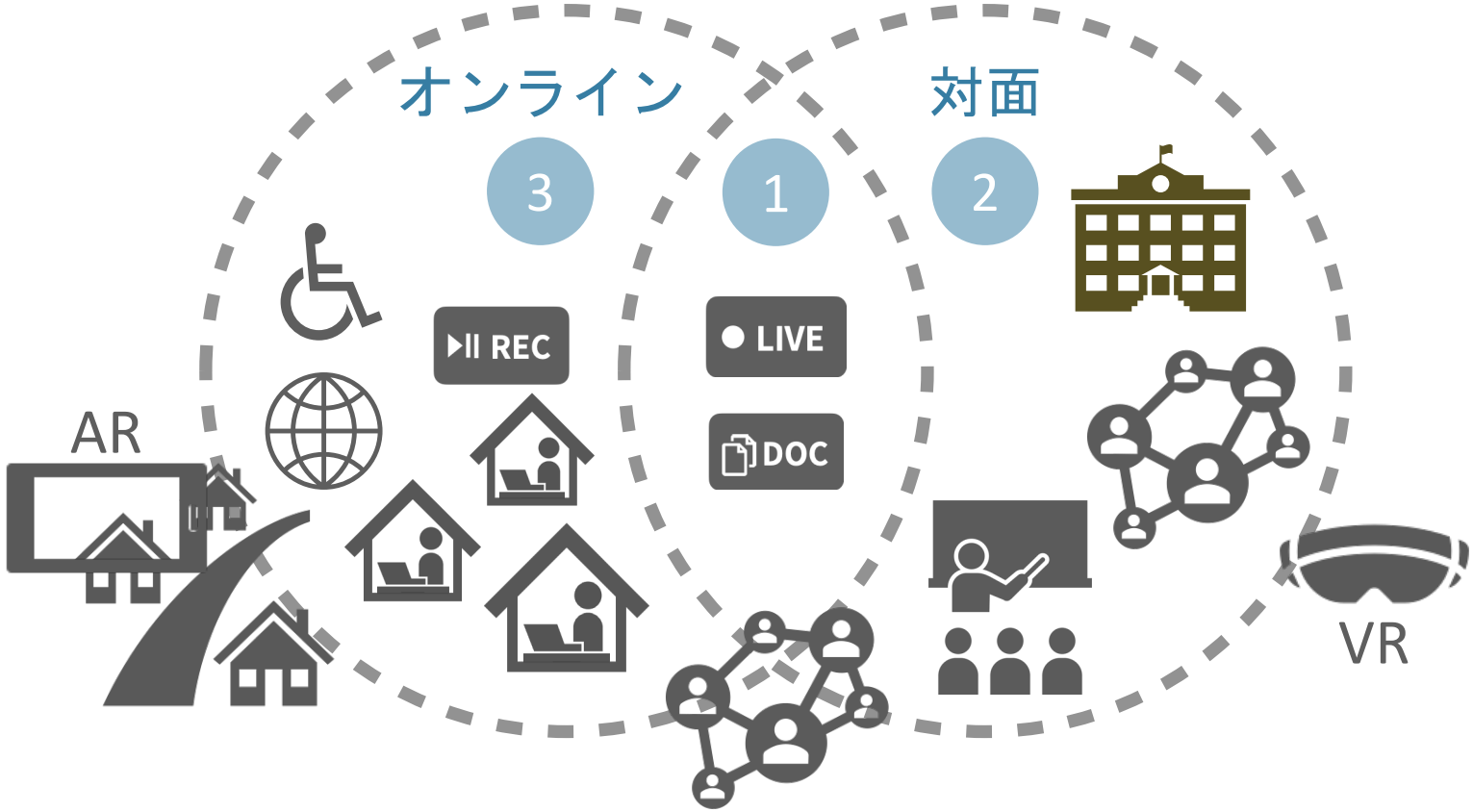


1. 対面でもオンラインでもできること
2. 対面でしかできないこと
3. オンラインでしかできないこと

堀 (2021)

浦田 悠（2021）日本質的心理学会第18回大会発表資料

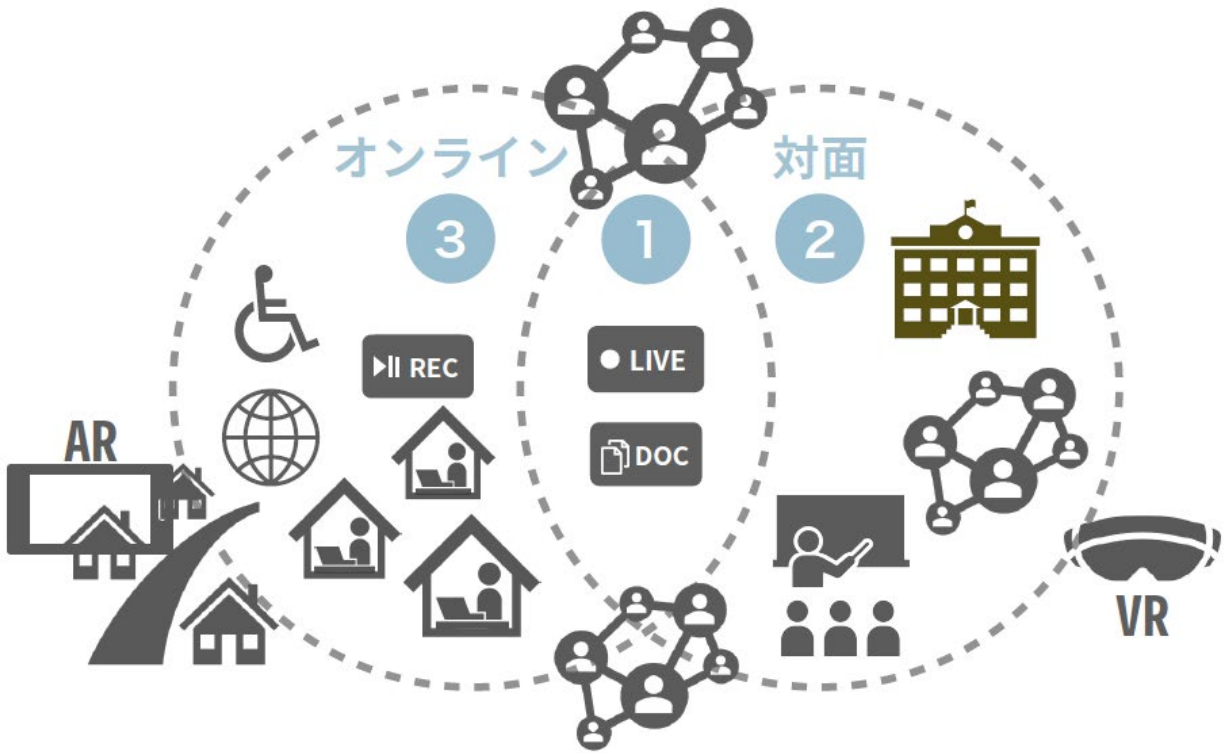
二項対立をトランスする



つながり（の実感・質感）の拡張
キャンパスの再定義

浦田 悠（2021）日本質的心理学会第18回大会発表資料

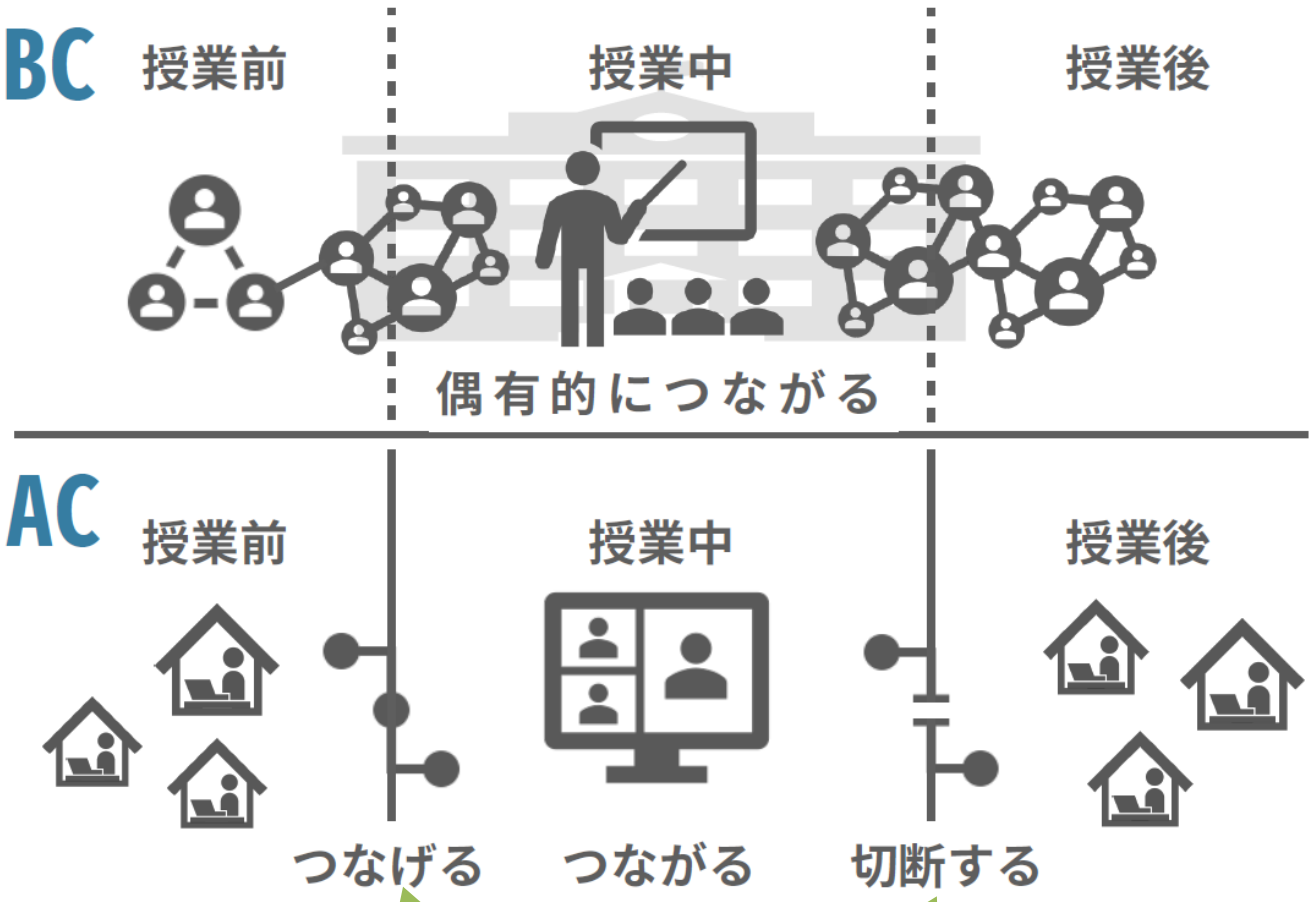
二項対立をトランスする



つながり（の実感・質感）の拡張 ≒ IoT

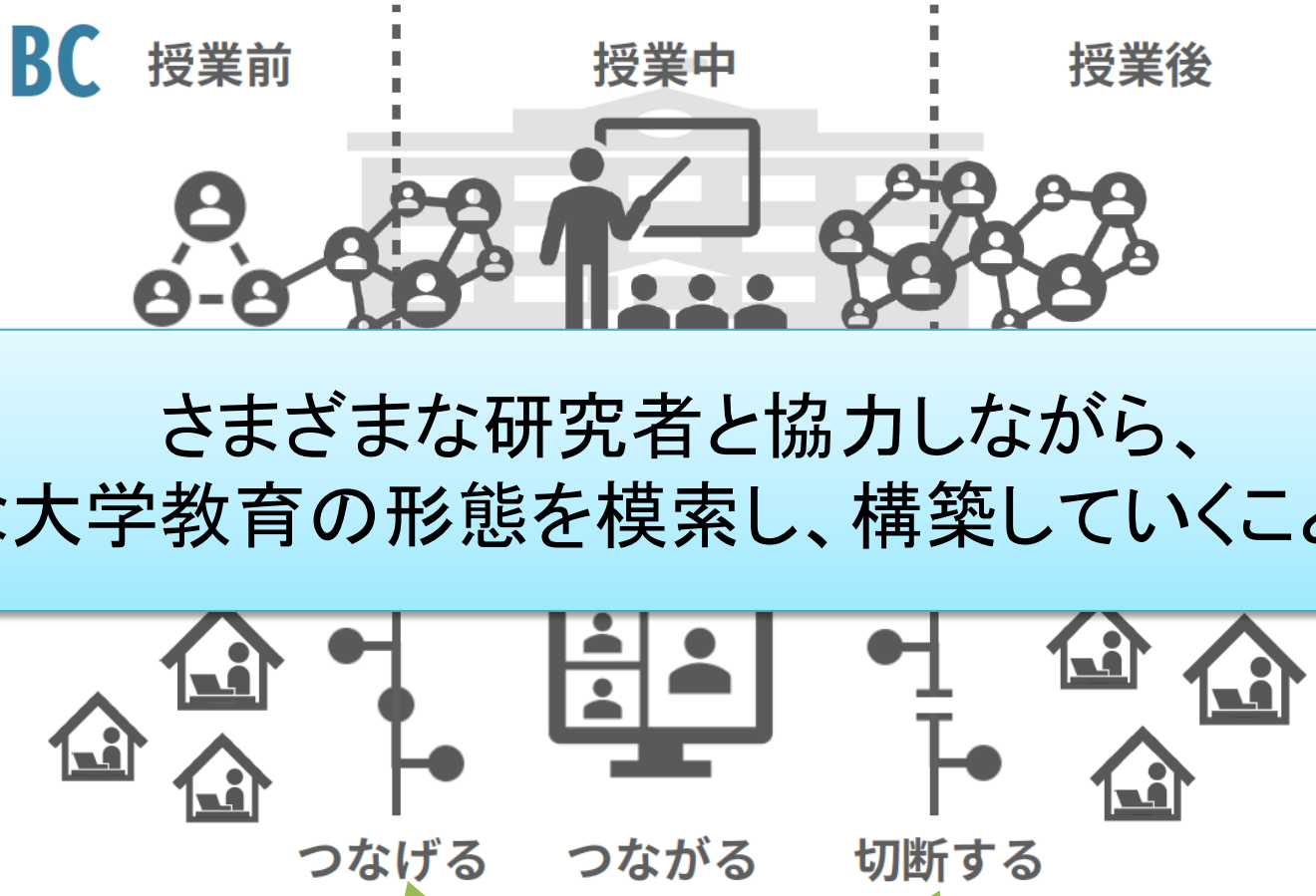
（情報）工学的アプローチだと、オンライン空間を
実空間に近づけていくことに

つながらない、つなげる、つながる



“つなげる”部分をどのように支援していくか
→教育・学習面で有用であることが重要
システム面、心理面 etc.

つながらない、つなげる、つながる



さまざまな研究者と協力しながら、
新たな大学教育の形態を模索し、構築していくことが必要

“つなげる”部分をどのように支援していくか
→教育・学習面で有用であることが重要
システム面、心理面 etc.

ポストコロナの時代における ラーニングコモンズの役割

- ポストコロナの時代における高等教育を考える上で、
  - ラーニングコモンズや図書館など“物理的”な学習空間
  - オンラインを利用した学習支援
  - 学習に関するコミュニティ形成

  をどのようにデザインしていくのか、ということが重要

それぞれの大学の特性に応じてデザインするとともに、
広く情報共有、議論をしていくことが求められる